

トトロの森の豊かさを

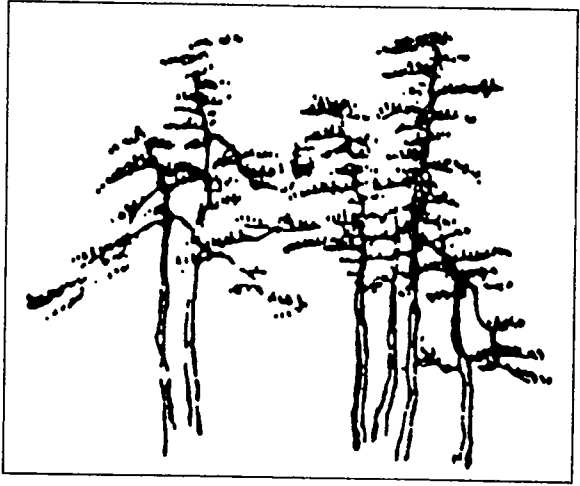
深小学校 小林龍一郎



十一月十三日、昨年から四回にわたるPTAの方々の奉仕作業で、学校の裏山に「おもしろ探検コース」がほぼ完成した。地域住民の学校・幼稚園に寄せた関心と愛着が我が学園を支えてくたさる。この奉仕作業は地域と学校・幼稚園が一つになった証である。

冬を迎えようとしている裏山「トトロの森」は葉を落とし、子どもはチャイムとともに校舎を飛び出していく。「がんばれよ」「もうすこしだ」と励ましあう声を保護者・地域の人たちに伝えたいという思いにかられる。

報道によると自然体験の豊かな子どもは、よい道徳感や正義が身につくといい。明確なデータがしめされている。そうだとつくづく思うと、腕白がトトロの森にはいると、やぶや山道の怖いという子をかばい、励ましの声をかける正義のウルトラマンに変身する。学校という狭い敷地の中では見せてくれないほればれとする行動である。しかし、はじめから豊かな自然があるのではない。地域の人々が長い時間をかけて作りあげ



守ってこられたことを忘れてはならない。里山の管理、水路の掃除、そしてなにより、自然に対する人々の優しい心が「トトロの森」を守ってきたと思う。今、小学校は地域化計画をつくり、地域の教育力を貸していただくとうと考えている。新世紀へのカウントダウンに入ろうとしているいまこそ二〇〇〇年代は深町の時代だと考えた。そこで育まれてくる学校・幼稚園に対してこれまでに以上の夢を持ちたい。

今回、深町太鼓踊り保存会子ども部会が、青少年女性センター主催の第十四回三原市青少年

の集いで、青少年模範活動団体として表彰を受けた。これは毎年六年生が壮青会のみなさんの指導を受け、干川神社の秋祭りである。また、作文発表の部では市内小中高児童生徒の秀作二十の中に、三年生天木美菜見さんが「泳ごう二十五メートル」という題で入賞した。そしてリジョンプラザホールで立派に朗読した。

学校の前には県道が走り、急ぐ車の往来が騒音をどろろかせている。危険と隣り合わせの現実がある。それでも子どもたちは朝から「校長先生、イモリの肛門を見つけたよ」と嬉しそうに手をつかみ、「袋ください」と無邪気に真剣な眼差しを見せてくれる。

世の中がどんなに騒がせしくなろうとも、豊かな自然をなくす姿勢こそ、たくましい子どもが育つと、トトロの森は証明している。トトロの住む森・中山で、校舎を校庭を静かにトトロは見守っている。

泳ごう二十五メートルを

深小三年 天木美菜子

今日は、まちにまった水えいきろく会です。

わたしたちより前に六年生や五年、二年生の人が泳ぎました。ほかのひとたちの泳ぎを見て、こんなに泳げるかなと少しふあんになりました。

そして、いよいよつぎは、わたしたちの番です。

わたしは、二コースです。ゆっくりプールに入りました。プールの水は、とてもつめたくて、ブルブルガタガタ体がふるえて、しまいました。

わたしは、「ぜったい二十五メートルは泳ぐぞ。」

と、小さい声で自分に言いまわした。

わたしは、三年生になっての目ひようは、「二十五メートル泳ぐ」と、きめていました。

「パーン。」

と、てっぼうの大きな音がしました。

わたしは、ピクッとしたけど、手をピンとのぼして、かべをおもいっきり両足でどんとけりました。

スーと体が前にできました。あとは、ただ手をしっかりとかいて、体を前に前にすすめるだけです。

みかちゃんの、「がんばって。」と言う声が、聞こえました。

その声に、はげまされて、力がでました。

「ぜったい泳げる」と思いました。

力を入れて水をかき、息つきをする時には、「パッパッ。」と、口をあけました。

手を何回も何回も回し、手がいたくなるまで回しました。そのうちにどんどん息がくるしくなってきました。

「もうだめだー。」

と、思いました。

「やめようかな。」

「もう立ちたい。」

と、何度も思いました。

顔を上げてみると、二十五メートルのかべが見えました。

「よし、あとひといきだ。」

と、もう一回手を回しました。

みんなが、「あと少し。」

と、言ってくれたので、手をの

★有延正巳様 八三歳 二六日

十二月町内各種団体行事予定

小学校(幼)

- 城山登り 四日
- 集金日 九日
- 貯金日 体重測定 一〇日
- 参観日・期末懇談 一四日
- 体重測定(低) 一五日
- 体重測定(高) 一六日
- 修業式 二二日
- 女性会 二二日
- 親睦会 上組 二日、中組 四日、下組 二日
- 親睦会 二二日
- 消防団 二七、三一日
- 年末警戒 二七、三一日

◆ピーチバレー練習日の案内

来月一月、市体協主催大会に向けての練習を、一月九日、六の両日午後七時から、小学校屋内運動場で行ないます。多数の参加をお待ちしています。

女性用「腕時計の忘れ物」

十一月二十一日、町民会館二階で女性用の腕時計を拾得しました。

お心当たりの方は、番六三三四七五六 高崎まで

る。豊かな中で、強い心をはぐくみそだててくれる里山、いつまでもトトロの森が豊かであるように、地域と子どもたちの学校として確かな基盤を築いていきた

▲▲

のぼして、二十五メートルのかべに手をあてました。

きょうとう先生が、「まだ泳ぎ。」

と、言ったけど、わたしは、息が、くるしかつたので、二十五メートルでやめました。

わたしは、四年生になったら五十メートル泳ぎたいです。▲▲

私が受けた教育では、「口は二つ耳は二つ」聞くことが大事だから耳が二つ多いのです。現在の教育では、聞くことより自己主張、自己表現に力点が置かれていようです。Fだよりに第二中学校校寺田教頭先生から頂いた文章の一節です。▼学校の延長が実社会ですから、いろいろな価値観をもつ人が、それを主張されるのは極々自然なことです。教育現場では、戦前教育の反省にたって自己主張の必要性を教えていられるのでしよう。正しいと信じた事が堂々と云える社会は健全です。唯、「何が正しいか」となると、価値感の違いから千差万別です。

▼この「何が」の部分、聞いた上で対比しなければ安易に結論が出せない、と思うのですがどうでしょう。他人の意見に耳を傾けず頑迷な自己主張の結果は、旧帝国陸軍が証明してくれました。歴史に学ぶことも「聞く」一端です。▼話をきかなくなっただ子どもたちの姿は、そのまま大人の社会にも当てはまる思いで読みました。この現象を今の社会に移してみれば、議論・選択の場であるはずの議会は、その責任を果たしているのでしょうか。今、問題の組織犯罪や経営戦略を巡って、どれほど「きく」ことがなされているか疑問です。小

阿弥陀堂の移転修築

県道拡幅のため、沖田阿弥陀堂は創建当時の場所へ移転され、再び中垣内阿弥陀堂となりました。

十一月二十三日、雨中でしたが多数の方々のお参りのもと、入仏式・祝賀法会がしめやかに行なわれました。

深の歴史余話 (十九)

高崎 壽郎

子どもの遊び今昔 (1)

もういくつ寝るとお正月
お正月には凧揚げて
独楽を廻して遊びましょ
早くこいこい お正月
の歌にあるように、昔の遊びは
凧揚げ独楽廻しから始まっ
た。

遊びの種類は豊富で、昔の子
どもは時間を忘れて思いつき
遊んだものである。今でも、遊
び方まで鮮明に憶えておられ
方も多いと思う。

昔遊んだものをあげると
★たこあげ★チャンバラ★くぎ
★水切り★小鳥取り★木登り★
川・池での水泳★まりつき★ゴ
ムとび★ケンダマ★ダルマ落
し★おじゃみ(お手玉)★折り
紙★飛行機★じゃんけん遊び★
カンケリ(石けり)★馬とび★
かくれんぼ★鬼ごっこ★なら
ま★ままごと★坂すべり★お
相撲(腕相撲)★あやとり★お
はじき★羽根つき★お手合わせ
せっせ(せなど)★陣とり★カ
ゴメカゴメ★縄とび★ハンカチ

落とし★おしくらま
んじゅう★カルタ
★トランプ★すごろ
く★花札★松葉切り
★虫とり★水鉄砲
★杉の実鉄砲(紙玉鉄砲)★ビ
ー玉★将棋★メンコ(パッチン)
★コマ回し★輪回し★竹とんぼ
などまだあると思う。

いつもの時間いつもの場所
に行く、大勢の子ども集ま
てくる。ガキ大将もいる。遊び
は今とちがいが異年齢集団の遊び
だった。

その特徴は、外遊びが圧倒的
に多いこと。親からも一外で遊
びなさい」と
言われるし、
みんな外で遊
ぶものと思っ
ていた。

暑い夏の日
に汗を拭き拭
き、又、冬の
寒い日に青
鼻をすすりな
がら、霜焼け
した耳、あか
切れた手足
で遊び廻った。
暮れ近くまで
遊び、服が汚
れ、叱られる
ことも度々あ



昔の遊びは、昭和四十年代末
であらかたその姿を消したとい
われる。

勉強、部活、おけいこ、塾な
どいろんな要因があると思われ
るが、今、外で遊ぶ子どもをほ
んでいたのにどうしたのだろう
今の子どもたちは、どんな遊
びをしているのだろうか。▲▲



絵 船本輝明

「近東伊太利航路」の思いで (2)

秋本 俊之

無線局は定員が二人なので、
一人一日八時間で二人で十六時
間。残りの八時間は空席となる
訳です。然し、遭難通信(SOS)緊
急通信を傍受した場合は、二人
で二十四時間ワッチを続け、そ
の状況順末を傍受し、ブリッジ
(船長)に報告し、場合に依っ
ては遭難の現場へ救助に急行す
る事を義務づけられて居ります。
遭難通信は一定の波長にて放
送されるので、それを傍受した
場合は、遭難通信以外は電波の
発信は禁止し、全船舶はそれを
傍受する事が、無線電信電話法
規に定められて居ります。

その範囲は広く、瀬戸内海を
航行中でも、長崎沖の岩礁に乗
り上げて遭難した通信、又は、
青森県竜飛崎沖での遭難通信を

数時間傍受した場合もあり
ました。

そう言った作業を繰り返
し乍ら船は長崎を出て、シ
ンガポールに向けて航行を
続けました。

長崎を出港し、二、三日航行
した時、東支那海を北上して来
た台風に出会い、船は激しくピ
ッチング(たてゆれ)やローリ
ング(横ゆれ)をくり返し、
速度が出ないので上海に避難す
べく方向転換を迫られた程でし
た。然し、幸いに台風は通過し、
又、船は南進を続けることがで
きました。

船が激しく揺れると、サロン
にて食事中食器がつつるすべ
るので、テーブルの上は障子の
骨の様な枠を作り、その中より
外へ出ない様にして居ります。
従って、隣の人の食器とは衝突
しない様に工夫されて居ります。
台風は波が大きく、高さ七十
八米位のもので正面から船にぶ

随筆 後継者不足、細る「農」

中野 河野 強

実りの秋を迎えたが、猪の被
害がひどく、そのため収穫も半
減してしまつた。

息子は「儲けにならん農業じ
やのに、もう作るのをやめて、
ほっときんさい」と言う。然し
昔の人が、汗水流して血のじ
む思いで拓いた土地を荒らすの
もと、ついトタン板で垣をした

しく振動し乍ら航海を続けま
す。最初の航海に出会って、ワッ
チを終えて夜等は体がガタガタ
震えて、ベッドに入っても眠れ
ません。今にも舷が真つ二つに
折れて海のもくずとなると思
程でした。余りの恐怖のため、
隣の部屋の三等航海士や、三等
機関士の部屋をのぞくと、彼ら
は平気で安眠している様子なの
で、又勇気をとり戻して、自分
の部屋に帰って眠ったことでは
翌日朝、ベッドの下にタンス
の引出しが、三〇程飛び出して
居る程でした。

こうして台風域を脱し、台湾
が近づくと次第に海上の波は治
まり、気温も一日一日と高くな
り、台湾の北端の山がはるか向
うの右舷側に見えてきました。▲▲

全国大会予選を兼ねた第十六
回県高校女子駅伝競走大会は、
十一月六日三大会は、
開かれ、如水館が初
優勝した。

飛び出し
最後まで
ない安定
見せ、一
十三秒(一
・〇九七
二位以下
けゴール
十六日、全
する。優
頭張れ、
尚、昨年
あげて代
続二回目
となる。

は一区から
た如水館が
一位を譲ら
した走り
時間十分三
五区間二一
五キロ)で
に大差をつ
イン。
は十二月二
京都で開か
大会へ出場
勝をめぐし

如水館 〇初"V"



2位の近大福山を大きく引き離してゴールインした如水館の力石選手(みよし)運動公園陸上競技場で

春夏秋冬

梶谷 マサヨ

教え子より 丹精の菊 手向けられ
香漂う 秋晴れの日に

世も変わる 下しか見えぬイノシシが
上を見上げて 柿をねらえり

秋日和 祖親よりある 松なれば
長生きせよと 植木職たのむ

位は、波の大き、高さ七十
八米位のもので正面から船にぶ
つかる。本船の舷首
は波の中に頭を突っ込
み、海水は船上の甲板
上を漕の様な流れを繰
り返し乍ら進みます。
その時は、百三十米
の舷体は前半分と、
後半分は交互に波の上
に出るので、船尾が空
中にはね上げられた時
は、スクリーンが空を
し急速に回転が早くな
り、大きくガタガタと
音をたて、船が半分折
れるかと思われる程激

り、電気柵をしたり老齢に鞭打
って努力してみる。が、後継者
のいない農家の抱える悩みは深
刻で、休耕地がふえそれに加え
てふえつづける猪の被害で、年
々荒れ地が目だつてきた。

私はこの荒れ地を見るにつけ
いっそう寂しさを感じている。
工場もなく汚染のない澄んだ
水を、満々とたたえる田。その
水田をこのまま眠らせてしま
うのは全く忍びない。また日本
の大切な物を失っていくように思
えてならない。

しかし、いかにせん、寄る年波
には抗しがたく、老人は村を離
れて会社つとめの子供たちの所
へやむなく移住される。

離農者がふえ、村が過疎地に
なると、周囲が荒れ地となるの
が一層速い。残された畑や田を
背負うにはあまりにも荷が重
すぎる。また背負っても今の農
政ではその代償もない。

山間地の農家の最大の悩みの
種だ。唯々手をこまねいて無念
の涙するしかない。農が壊れる。
我々の心もまた、心の古里、村
を失っていいのだろうか。

今年も鎮守の森の氏神様の秋
祭りが来たけれど、心なしか活
気がない。祭りごともしつまで
たいものだが、何ともしも郷土を守り
▲▲

